



ホームページ・<http://www2.ocn.ne.jp/~lsekkei/>

2009年1月号

「主題」・スローガン

- 国際会長 : 「希望の灯となろう」・「分かち合いは微笑をもって」
 アジア地域会長 : 「希望の灯となろう」・「より良き奉仕のために共に働こう」
 西日本区理事 : 「思いやりを持ってワイズライフを！」
 中部部長 : 「楽しくワイズ、スクラム組んで」
 プラザクラブ会長 : 「学びを深めつつ、着実な活動を！」

【強調月間:IBC-DBC】

1月例会・今後の予定ご案内

【1月第1例会(クラブ新年会)】

日時: 1月8日(木)・18:30-
 場所: みなと(東区東桜2-17-17 アルティス東桜1F)
 TEL. 052-932-3710

会費: 通常会費(7000円)

【1月第2例会(名古屋地区クラブ新年合同例会)】

日時: 1月22日(木)・18:30-
 場所: 松風閣(千種区山門町2-3 TEL. 052-751-2526)
 会費: 12000円

◆1月の第1・2例会の日順は元に戻します。第1例会は通常会費、第2例会は別途特別会費負担の自由参加、といたします。12月号記載の内容と異なりますのでご注意ください。

【今後の予定】

1. Yを愉しむ会

日時: 1月12日(月・祝) 18:00-20:00
 場所: 名古屋YMCA ロビー
 会費: 3000円(ビール、ジュースなどをご用意いたします。ご参加の方はおつまみ、フルーツ、お菓子などをお持ちください)

2. ワイズセミナー

日時: 1月25日(日)・15:00-17:00
 場所: 名古屋YMCA 3F会議室
 内容: ワイズ読本の編集を担当して
 (参加される方は、当日ワイズ読本持参のこと)

3. 人形劇(中部部会チャリティ企画)

日時: 3月21日(土)・15:00-
 場所: 東別院会館ホール
 会費: 大人3000円・小学生以下1000円

◆プラザのプリテンがインターネットでご覧いただけます。HPご利用の方は左下段の榎田宛Eメールにて「郵送不要」とご連絡ください。

◆例会および各種行事の出欠席は、連絡主事の万福寺さんへ開催前日の午後5時までにご連絡ください。

12月例会・その他行事の出欠表 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者			算定
		1	2	M	
会長	大島 孝三郎		○		○
	小澤 幸男	○			○
書記	榎田 守隆	○	○		○
直前会長	後藤 猛	○	○		○
	島崎 正剛	○	○		○
副会長	鈴木 誉三	○	○		○
	高田 廣	○			○
会計	松永 裕子	○			○
	山内 三枝子				
	横井 豊	○			○
連絡主事	万福寺 昭美	○			○
広義会員	山本 茂樹				
ゲスト	分部 春代	○			
	横井 絹子	○			
	森宗 志保	○			
	渡辺 聖子	○			
	服部 庄三	○			
(M) メーキャップ					

出席率合計・(算定合計/会員数) 90.9%

1. ニコボックス ・当月/累計	0	28524
2. オークション	0	31300
3. 切手	0	0

ファンド ・当月合計/累計 0 59824

◆次月号の寄稿者は鈴木さんです。

Eメール・moritaka_kushida@ybb.ne.jp

1 2月第1例会報告

クラブのクリスマス例会が11日、覚王山の松風閣で開かれた。ゲストに分部さん、横井さんの奥方、YMCAからは森宗さん、渡辺さん、グランパスの服部さんをお迎えして、総勢14人の少し早めのクリスマス会が始まった。

テーブル毎にグループが出来、それぞれが真面目に時には冗談を交えながら話しが弾む。宴たけなわのころ、幹事松永さんの珍しい趣向でプレゼントの交換が行われ、9時過ぎ会は無事終了した。

1 2月第2例会報告

日時：12月25日(木)・19:00-20:30

場所：名古屋YMCA会議室

1. 中部ホームページクラブ紹介原稿確認・榎田

ホームページのクラブ紹介欄は、前期会長のままでしたので、大島会長の標語および新たな紹介文を確認する。

2. クラブ活動状況報告原稿確認・榎田

1月の新年合同例会において、各クラブの活動状況を3-5分のパワーポイントにまとめて発表せよ、との指示がホストクラブのグランパスからあった。わがクラブでは作成出来ません、グランパスの荒川さんをお願いします。写真と原稿を確認。

3. 1月号ブリテンの送付連絡・榎田

12月28日から1月5日まで名古屋YMCAが閉館のため、ブリテンの印刷が出来ません。メンバーには例会・行事予定表をFAXで年内に送付します。

4. 第69回国際大会連絡・大島

2010年8月5日-8日、横浜にて国際大会が開催されますが、クラブ単位の参加予定人数とピンバッジ購入予定数の確認が西日本区からありました。参加人数5人、個数全員と回答する。

5. 山内さんからの退会届報告・大島

山内さんから退会届が書面で提出されました。今後の対応は、(1)今期中の中部部会の交流主査を担当されていたので、代役として鈴木さんをお願いする。会長は、その旨中部部長の谷川さんに連絡する。(2)会長は、西日本区の事務方へ所定の書面にてクラブ会員数の変更届を直ちに提出する。

6. 中部部会チャリティ企画「人形劇」連絡・鈴木

3月21日(土)・午後3時より東別院会館ホールにて人形劇を開催いたします。料金は大人3000円・小学生以下1000円、多数のご来場をお待ちします、とのことで収益金は、区のストップエイズキャンペーンの支援金・中部各クラブの支援団体の活動資金として配分する企画です。

7. 1月の例会開催

1月の8日を第2例会、22日を第1例会と11月の第2例会で決めましたが、通常会費プラスαで特別会費の場合クラブ財政に影響する恐れがあり、また全員参加の第1例会は第2木曜日、役員会主体の第2例会は第4木曜日と日順的に収まりが良い。今後とも、10月第2例会で決定した、「クラブ行事を例会としない」と同じく「月の前半に開催する例会は第1、後半に開催するのは第2例会とする」ことを確認する。

8. 7月の決定事項を踏まえて

(1) 1月第1例会

日時：1月8日(木)・18:30-

場所：みなと(東区東桜2-17-17 アルティス東桜1F) TEL.052-932-3710

内容：クラブ新年会

会費：通常会費(7000円)

(2) 1月第2例会(自由参加)

日時：1月22日(木)・18:30-

場所：松風閣

内容：名古屋地区クラブ合同新年会

会費：12000円

小さいのち愛知・公開講座報告

隔年ごとに名古屋で行われる「インフルエンザ脳症の会・小さな命」主催の第7回公開講座は、11月29日川本製作所8階ホールで開かれた。

クラブメンバー8人(大島・小澤・榎田・後藤・鈴木・高田・松永・万福寺)が参加、南山幼稚園から椅子を運び込んで会場を設営する。保育園、幼稚園、医療関係者、幼児を連れた保護者など100人ほどの参加者を集め、午後1時開演した。講師にお迎えした岡山大学小児医科学の森島恒雄氏は「インフルエンザ脳症の現状」、岡崎市の花田こどもクリニック院長花田直樹氏は「流行病の見分け方と家庭での対応」をテーマに、途中参加者との質疑応答を交えて午後3時半ごろまで講演する。

講座終了後、お2人の先生は会場に残り、列をつくって待つ個人ごとの質問に対応していた。

会場の後片付け後、再び小澤さんの車で南山に椅子を返して解散する。

(榎田 守隆)

インフルエンザ・脳症の会の宮澤さんから大島会長宛てにお礼状が届きましたのでご報告いたします。

拝啓 師走の候、大島様におかれましてはますますご健勝にてご活躍のことと、心からお喜び申し上げます。平素は、小さな命に多大なご厚情とご支援を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

また、この度は、私共の公開講座開催にあたり、

早朝より会場設営等に変にお力をお貸し下さいまして、本当にありがとうございました。会に参加して来られる会員も女性がほとんどで、またそれぞれに心に傷を抱えているため、皆様方のご協力は毎回本当に有り難く、ただ、ただ感謝申し上げるばかりでございます。片づけに際してもお力添え下さり、深謝申し上げます。本当に有難うございました。

勝手なお願いばかりで大変恐縮ですが、今後とも小さいのちにご理解を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、大島様のご活躍と貴会の今後ますますのご発展、そして皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。取り急ぎ書中をもちましてお礼を申し上げます。

かしこ

小さいのち愛知 宮澤 会美香

インフルエンザと脳症

保護者ら 120 人学ぶ 名古屋

インフルエンザ・脳症についての公開講座(中日新聞社後援)が 29 日、名古屋市中区大須の川本ビルで開かれた。

インフルエンザで子どもを亡くしたり、後遺症が残ったりした子どもの家族らでつくる「小さいのち」が主催する 7 回目の講座。小さな子どもを持つ保護者や医療関係者ら約 120 人が参加した。岡山大の森島恒雄教授が「インフルエンザ脳症の現状」、岡崎市の花田子どもクリニックの花田直樹院長が「流行病の見分け方と家庭での対応」をテーマに講演した。

小さいのち愛知支部長の宮沢会美香さん(39)は 1998 年に 3 歳の長女をインフルエンザ発症から 3 日で亡くした。「当時は医者も風邪とインフルエンザが同じようなものだと思っていた」と悔やんでいるという。宮沢さんは「時代に合わせて一般の人にもわかりやすく伝われば」と公開講座への思いを語った。

(猪飼なつみ) 11 月 30 日付 中日新聞 18 面県内版より
◇この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

老人介護施設慰問報告

12 月 7 日、後藤、島崎、鈴木、高田さんたちが小澤さん宅に集合した。演奏者の鈴木先生と一緒に昼食を終え、オルガン積み込んで老人介護施設、大曽根アミーユに向かう。会場を設営する間に、手引きや車椅子で居住するご老人が三々五々集まる。予定の午後 2 時を少し過ぎて、想念寺のこどもコーラス「ポコ・ア・ポコ」の「鐘の鳴る丘」から演奏会が

開かれた。この音楽会に賛同する想念寺の住職は、奥さんが指導するこどもコーラスを第 2 回から参加いただいている。

Hammond オルガンの演奏は、「りんごの唄」「青い山脈」と終戦間も無く流行った唄に、そのころ青春時代であった人の中には思い出したように口ずさむ。「故郷」の曲が流れると今まで静かに聴いていた横のおじいさんが、♪ 兎追いし かの山♪ と歌い始めた。続く「母さんの歌」に声が大きくなる。

最後は中日スタジアムで試合の合間に演奏していた鈴木先生の「燃えよドラゴンズ」の曲に合わせて、♪ いいぞ がんばれ ドラゴンズ 燃えよ ドラゴンズ♪ と全員合唱する。

今年 2 回目の音楽慰問は、想念寺の住職と機材の積み込みをしながら、「よかったね、また今度」と挨拶をして終了した。

(楡田 守隆)

クリスマス・キャロル報告

名古屋地区のワイズクラブメンバーは、午後 5 時ごろに JR 名古屋駅タワーズガーデンに着き、会場の設営を急ぐ。200 人余りの合唱隊が続々と到着、サンタの衣装を着て舞台上立つ。約 1000 人の聴衆を集め、6 時「サンタが町にやってくる」を皮切りにクリスマスソング 5 曲が披露された。

クラブメンバーは横断幕やワイズの旗を持ち、歌詞カードを配る。今年は外国人の姿が目立つ。若いカップル、子供連れ、老夫婦の人たちが歌詞カードを片手に曲に合わせて口ずさむ。

30 分の公演が終わり、7 時から 2 回目が始まる。聴衆が少なくなったようだが、合唱隊は元気に歌い、最後の曲「もろびとこぞりて」では ♪ 主はきませり 主はきませり♪ と聴衆と共に歌う。大晦日には寺院の除夜の鐘を聞き、元旦には社寺への初詣、日本人の宗教観は釈迦もキリストもムハンマドも日本に来れば一神様に過ぎない。日本人の宗教に対する寛容さは何なんだろう、とふと思う。

寒風にさらされて旗を持っていた後藤さん、鈴木さんと一緒に熱燗を求めて地下街へ走り降りた。

(楡田 守隆)

初登山 霊仙山(りょうぜんざん)

9 月 28 日、ヒルウォ・キングクラブに参加しての初めての登山、それが霊仙山(鈴鹿山麓の北端に位置する・1084m)でした。9 月に入り、なるべく車での移動は慎み、つとめて歩くようにして足慣らし・・・そして当日を迎えました。

9 月、同クラブの方の同伴で初登山用の靴を購

入・・・そこからがスタートでした。

今までは、山は遠くから見るものと思っていた私には、とても辛く、滑って足を痛めたらどうしようかと！ 歩くのが遅くて他の人に迷惑をかけたらどうしようかと！ 行く前からいろいろ考えながら当日を迎えました。転んだら“おんぶしてくださる”と聞いて、簡単に“OK”を出して参加しようとした軽率さを感じながら・・・。

誰でもスタートは、初級・中級・上級とレベルアップされるわけですからと思ひ決心の出発。一緒に歩かれた中の3人はエベレストまで登頂された方々。それもシェルパナを連れられての登山でした。

初登山は精神的にも、肉体的にも、自分がどこまで付いて行けるかのかが未知数で不安でした。

名古屋を出て樽が畑登山口→汗ふき峠→霊仙頂上での昼食→から下山コース。登り始めて、いろいろな木々の合間、細い道、薄暗い中をただ黙々と歩き、汗を掻きながらも無心に歩く。

途中休憩をしながら、一步ずつ進み、その先には、琵琶湖、比叡山・・・それが目の前に見えたときは美しさで感動を覚えました。山頂に到着・・・近くでランチ。

シェルパナの人たちと尾ノ上さんが、焼きそばを作ってください、おにぎりを食べながらインスタントのお味噌汁。最後にインスタントコーヒーをいただきました・・・どこのレストランより美味しかったと思いました。屋外で頂く食事はとても美味しく、辛かった事も忘れてしまいました、と同時に喜びはまた違った感覚で私の中に残っています。

下山はまた登りと違った感覚でしたが、登ることが出来たから、下りも大丈夫と自分を励ましながら無事に歩き続け完歩しました。

今回の登山は中級だったらしいのですが、機会があればまた行ってみたいと思っています。(癖になるかも!!)

マイナスイオンの中の森や林には、神々が住んでいると言われていました。

(松永 裕子)

聖書に由来する語句・慣用句・諺

【イエスは答えて言われた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、近寄って傷にオリーブ

油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。次の日、彼はデナリ2つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』この3人中で誰が、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」(ルカの福音書 10. 30-37)】

【テーマ、隣人愛のつもりが、「サマリヤ人」が気になった。イスラエル王国は紀元前 1021 年ごろ中近東に成立したユダヤ人の統一王国であったが、後にユダ王国(南王国・(注:1))が分離したため、分離後のイスラエル王国は北イスラエル王国あるいは北王国ともいわれる。紀元前 721 年、アッシリア(注:2)はその北王国を占領して住民を自国に連れ去り、あるいは中東全域に強制移住させ、占領地にはアッシリア人が移り住んだ。(注:3)アッシリア人とこの地に残ったユダヤ人との間に生まれた人々が、サマリヤ人と呼ばれた。彼らはアッシリアの宗教とユダヤ教を混合した宗教を形成していたため、ユダヤ人は正統な信仰から外れた者達とみなし、交わりを嫌った。「サマリヤ人」というのは、ユダヤ人が口にした場合、侮蔑の言葉である。

(注:1)南王国・紀元前 586 年に新バビロニアの侵攻により滅亡、多くのユダヤ人がバビロンに奴隷として囚われた。その後新バビロンを滅ぼしたペルシャの支配下に置かれ、一時期独立を回復する。第1次ユダヤ戦争。

(注:2)アッシリア・メソポタミア(現在のイラク)北部を占める地域、またはそこに起こった王国・世界帝国。チグリス川とユーフラテス川の上流域を中心に栄え、後にメソポタミアと古代エジプトを含む世界帝国を築いた。

(注:3)大量捕囚政策・被征服民の強制移住は、オリエント世界に広く行われた手段であるが、アッシリアはその組織性と規模において史上類を見ないものであった。(参考:ウィキペディア/聖書の謎 聖書の疑問・講談社)】

Z o o m ・アラフォーって何？

昨年のユーキャン新語・流行語大賞に選ばれた「アラフォー」を「あら！もう 40」と勘違いしていた。Around40=40 歳前後(35-45 歳)の女性を指し、2005 年に発生したアラサーの派生語らしい。従来型マーケティング最後のフロンティア？ だそうだ。

小生、昨年 12 月で 70 歳になった。今「アラサー」の真っ只中、振り込め詐欺集団のマーケティングでは最大のターゲット層であるが・・・。「我が家は大丈夫」「どうして」「騙されても払えない！」とはかみさんの話、ごもっとも。